

## 第 57 回西宮地区耐寒訓練報告書

西宮地区耐寒訓練実行委員会  
実行委員長 池田 謙之

1. 目的 :西宮地区のグリーンバーが一堂に会し、日頃の訓練の成果を試す場とする。さらに、班競争や日頃接することの無い者との交流を通じて、参加グリーンバー、参加指導者がボーイスカウト活動のおもしろみを再確認する機会にする。

⇒日頃の訓練の成果を試す場としての位置づけは十分に達成できた。スカウトハイキングを体感することで班競争へのこだわりも見られた。2日目ハイキングの報告書を書く態度を見ても、その勢いは感じられた。

2. 実施日 :平成 21 年 1 月 10 日(土)~11 日(日)

3. 集 散 :集合 平成 21 年 1 月 10 日(土)16:00(15:00 受付開始)

神戸市立自然の家に現地集合

⇒2班が班ハイクでのアクシデントにより開会式には参加することができなかった。

解散 平成 21 年 1 月 11 日(日)18:00

西宮市民交流センター(阪急西宮北口駅南側)

4. 場 所 :神戸市立自然の家

〒657-0101 兵庫県神戸市灘区六甲山町中一里山 1-1

TEL 078-891-0001 FAX 078-891-0002

5. 内容 : 初日 班ハイク

⇒隊での承認による班ハイクを実施したが、2班が時間をオーバーして到着した。当日は雪が積もっており時間通り到着した班も予定を変更した班がいくつかあった。隊指導者が十分な把握をしており、何が起きても動きの取れる体制が取れていたかは今後の課題である。

初日 かくれんぼ

⇒地区指導者の積極的な参加により大いに盛り上がった。細かなルール変更等はあったものの円滑に進めることができた。

初日 ワークショップ

⇒報告書の基本から応用まで7種類のワークショップを開講した。次の日のハイキングにすぐに変化が見られたものもあり評価できる。同じ内容を隊指導にも使ってもらえれば今後も発展のあるプログラムであった。

## 2日目 ハイキング

⇒ほぼ予定通り円滑に進んだ。1班だけ雪解けで道が悪かった為ペースが遅れ、御影へのコースカットを行った。各ポイントで今後の活動でも大いに使える技術書を配布したので今後の隊活動に利用してもらいたい。

6. 参加者 スカウト52名 指導者29名

## 7. 実行委員評価

※尚、プログラム概要等の詳細は地区HPにアップしているのでご参照下さい。

### 【かくれんぼ】

参加人数はスカウト49名、指導者15名程度。

かくれんぼを行い、第1ゲームはスカウトが隠れ指導者が見つかる、第2ゲームは逆に指導者が隠れスカウトが見つかるという2部制で行った。ルールは第1ゲームではスカウトは決められた敷地の中で各自配布されたケミホタルを体につけ、それが見えるように隠れる。指導者に見つかったら、所定場所まで行きそのゲームは終了する。

第2ゲームはスカウトと同じ条件で隠れている指導者を見つけたらその指導者に自分の団、班名を申告、指導者はそれをメモする。その後、スカウトは引き続き指導者を検索、見つかった指導者も引き続き隠れるというものである。

今回ゲームを執り行うに於いての問題点は、時間帯的にまだ明るかったので第1ゲーム(17時～17時30分)でかくれんぼをそれほど楽しめなかった点と、敷地をしっかりと仕切っていなかった点である。これらに対しては当日の時間帯の暗さも図っておく、スカウトに行動範囲のしっかりとした伝達、仕切りの増量などで対処していきたい。評価としては上記の問題点を除いては滞りなくプログラムを進められたと思う。スカウトも必死になって森の中へ隠れに行き、また指導者も楽しそうに隠れていたのが見受けられよかったと思う。スカウトが追跡を通し観察力がさらに向上したものと考える。

### 【班紹介】

各隊の活動における公民館の重要性が伝えられた。それぞれの班カラーが出て和気あいあいと行われた。独自性に富んだ紹介をする班は見られなかった。

### 【ワークショップ】

観察:

#### ①参加人数と指導者数

参加人数 7人 指導者 2人

#### ②内容と時間

時間:1時間

内容: 1.ゴツホの絵を30秒見せて、それに関するクイズを出題

2.角度歩数の無い観察物のみの野帳を作成→評価、感想

3.スカウトを前に立たせて30秒自分を見てもらいその後隠れて自分に関するクイズ出題

### ③評価

急遽ピンチヒッターとして担当することになり、あまりにも急ピッチで作ったため、つめ切れていないところが多々あった。例えば、時間配分について、おおまかに設定をしていたため最後時間が余ってしまった。しかし、予備用のゲームを用意していたため乗り切れた。余分にゲームやプログラムを考えておくことが大切だと思う。

内容については、少し難しかったように思う。理解してくれた子もいたが、難しく理解できず、あまり聞いていない子もいた。もっと、中学生にも分かりやすい内容へと考慮すべきだった。

後半の野帳については、多少動きが少なく退屈している子どもも見受けられた。もっと興味を持てるようにすればよかった。

全体的には、最後は子ども達も喜んでくれて、多少の理解もしてくれたので良かったと思う。

### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

筆記用具やメモ帳、ルーズリーフをもっていない子がいたため、最低限の用意は全員にきちんと徹底させて欲しい。

デザイン:

#### ①参加人数と指導者数 2名

#### ②内容と時間

- 60分
- 報告書全体にわたる、文字等の配置(余白、明き)について。
  - その他、過去の報告書で、文字で表したものを、絵等を使用して表現する例を配布。
  - 実作業として、絵を用いて「ハイキング装備」「班マーク」を作成

### ③評価

個人の感覚に頼るデザインの部分を、例を取り入れたものの上手く伝えられたかが不明。実際の参加者は、3団のシルバーウルフとゴールデンイーグルの2名であり、この2班の報告書の採点「デザイン」の結果は、ワークショップの実施内容を反映したものになっており、参考になったものと評価できる。

### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

「報告書」を課題の提出物だけとして、取り扱うことがあります。しかし、これはハイキング(てくてく骨を折りながら歩いてきた)の「記録」であり、今後の活動のための重要な資料となるものです。また、今後、「企画書・計画書・報告書」の類は、ベンチャー隊になっても、社会人になっても頻繁に遭遇することになります。第三者にわかり易く物事を伝える手段として、また、第三者が見たくなるような文書作りは、優れた技能のひとつになります。このような視点で、スカウトの報告書を評価してあげてください。

+α:

#### ①参加人数と指導者数

10名ほど

#### ②内容と時間

- 60分
- 報告書における+αの意味を伝え、実際の生活からも+αがあるのかを探る。
  - 音楽を聴くためのiPodに、電話やゲームがついた理由を探る。
  - 事実報告の報告書から、ちかいとおきての実践の足跡へと…

### ③評価

日頃、当たり前のように利用しているものも、実は理由があって付加されているということに気付いて欲しく行ったワークショップであったので即効果は見られないと予想していたが、2日目のハイキングからすでに運用している班が二つもあり評価できる。

### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

いつも同じものを同じように評価している指導者にも、子ども達の報告書に新しい発想が出ない原因の一つである。報告書の本質をスカウトに伝え、その本質から何が報告書にあると良いのかをスカウトと共に考えてみて下さい。

スケッチ:

#### ①参加人数と指導者数

スカウト3名、指導者2名

#### ②内容と時間

- (1)15個の品を並べそれらを1分間だけ隊員に見せ、品に布をかぶせ隊員から見えなくし、何があったかを用紙にスケッチする。
- (2)隊員達を二人一組にしてお互いスケッチする、この際、書かれる方は上から順にタオルで書かない顔のパーツを隠す。
- (3)スケッチを描くにあたって重要なことを説明する

### ③評価

少人数の為、たくさんスカウトと話せ、楽しくできたのではないかな?と思います。それだけではもちろんダメなのですが、興味は持ってくれたようですし、とても真剣に取り組んでくれていました。

### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

ポイントを教えた上で上手、下手でなく見る人にどれだけ伝わるかを重視して教えてあげてほしいです。

略地図:

#### ①参加人数と指導者数

10名程度

#### ②内容と時間

略地図はどういったものかを理解し、工夫次第では、自分にしかできないような、オリジナリティーのある略地図が作成できることを体感してもらう」ということを目的にして取り組んだ。

### ③評価

略地図への理解度は、参加者によってばらつきがあり、書き方がわからないスカウトに対しては、1対1で指導。また、書き方は知っているが、正しい縮尺をせず略地図を書いているスカウトがいたため、同じく1対1で指導。その成果もあって、参加したスカウト全員が、正しい縮尺を利用して略地図を作成できるようになった。次の段階である、「オリジナリティーのある略地図の作成」に関しては、あまり踏み込めなかった。用意したサンプルを配布し、それを参考により詳しく、見やすいものを作成してもらったが、「自分にしか書けない」というところまで考える時間がなかった。また、考えるヒントを提供できなかった。

全体として、全員が書き方を理解し、略地図はスカウトハイイクにおける報告書の要であることを理解してくれた点は評価できる。

#### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

特には無いが、今後も継続して略地図を書く機会を作ってやるのが大切である。

野帳：

##### ①参加人数と指導者数

スカウト12名、指導者6名

##### ②内容と時間

自然の家の館内をスカウトが個別で野帳を取り、それが終わったあと3～5人程度にグループに分け野帳に必要なものについてディスカッションする。一通り終わったらグループ全体の意見をまとめ指導者が伝えたい野帳の意図、意義、書き方を伝えるというもの。所要時間1時間40分。

##### ③評価

評価は指導者に充実していたことである。当初は指導者3人で行う予定だったが、実際には総勢5人の指導者でスカウトを見ることができ、グループディスカッションを行っているスカウトへの助言、初めて野帳を取るスカウトに指導など12人いたスカウトに対してほぼ個別対応でしっかり指導できたと感じた。

#### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

観察⇒野帳⇒略地図を一つのサイクルとして指導してやるのが大切である。

想定：

##### ①参加人数と指導者数

スカウト9名、指導者3名

##### ②内容と時間

- 1.ハイキングでなにをしたいのか
- 2.予想される結果をどのような方法で出すか
- 3.報告書は当たり前として結果なにを得たか？

上の三つの話について 10分ほど話をして各班の班ハイクの報告書を交換して感想意見などの話し合いに30分ほど使いあとはちょっとしたまとめをして終わりました。

##### ③評価

なぜ想定が必要か？というテーマでやりましたが少々違う方向性に話が進んでしまい最終的になにがしたかったの？といった感じになってしまいました。今回行った班ハイクの報告書の想定を交換して話し合うということをしたのですが、どうにも話し合うと言うのは難しく何か作業をするようにすればよかったです。

#### ④今後につなげる為に地区指導者への要請

そもそも想定とは何か、なぜ必要かについて知らない指導者も多いようです。地区指導者の共通認識としてスカウトハイキングのベースである想定について理解すべきだと感じました。

### 【ハイキング】

#### <目的>

普段の活動で身につけたスカウト技能を大いに発揮し、それを他団と競い合うことで互いに研鑽し合う。磨いた技能を耐寒訓練で終わらせるのではなく、「指導者が班長次長を指導し、班長が班員を指導する」というボーイスカウト活動の中心と考えを具現化する。

<コース&タイムスケジュール>

	場所	作業時間	TOP 出発	閉鎖時間
第 1 ポイント	自然の家	15 分	8:45	9:00
15 分				
第 2 ポイント	三国池	25 分	9:25	9:40
25 分				
第 3 ポイント	記念碑台	25 分	10:15	10:30
25 分				
第 4 ポイント	みよし観音	25 分	11:05	11:10
30 分				
第 5 ポイント	西お多福山入口	25 分	12:00	12:10
55 分				
通過ポイント	黒五谷分岐	5 分	13:00	
10 分				
第 6 ポイント	打越峠分岐	25 分	13:35	14:00
20 分				
第 7 ポイント	風吹岩	25 分	14:25	15:30
30 分				
第 8 ポイント	保久良神社			16:30

<評価・反省>

計画段階においては、慌ただしく最後の詰めを直前にしたため、配布物の不足、想定文の中の年号の誤り等、細かいミスがあった。また、下見での調査不足からポイントの場所を少し変更することになった。ポイント作業における指導者の役割分担に関しては、前日の会議で実行委員を中心に決めることができたので、当日は円滑に進めることができた。

実行中は、特に大きなトラブルはなかったが、コースカット、もしくはショートカットする班が出た場合の情報共有があいまいになり、把握しきれなかった。全体的には、大半の班がタイムスケジュール通り到着したので、ほぼ予定通り実行できた。

目的にも明記したとおり、耐寒訓練で学んだことを耐寒訓練で終わらせないために、各ポイント終了後、そのポイント作業の解説を記した書類を配布した。解説を配布することで、それを参考に班次長が班員に指導しやすくなったのではないかと考える。

報告書作成に関しては、最終ポイント到着後に「30 分間でまとめる」という制限時間を設けるのではなく、出発ポイントで配布した想定文に「17 時 30 分までに提出」と提出時間を明記するという方法をとった。理由としては、到着後の時間を有効に使うため。そして、「班で役割分担して推理・観察を行い、ポイント作業をこなし、迅速にコースを歩くこともスカウト技能の一つ」と考えたからである。

結果的には、早く到着した班は約 1 時間かけて報告書を作成することができ、時間と比例して内容も濃いものになっていた。実行委員の考え方にもよると思うが、今回の方法は、「いかにスカウトハイクをしたか」ということが正當に評価できると思う。

### ＜今後のハイキングでの留意点＞

まず、コースの下見は、しっかりとして計画を練り上げてから、入念に行わなければならない。そうしないと、正確なタイムスケジュールを作成できず、またポイントの場所が地図上の位置と違ったりしてしまう。

遅れる班を想定して、「どのポイントに何時以降に到着したらコースカット」といったように、事前に決めておくべきである。

各ポイントでは、採点を記入することは勿論、各班の到着時間、出発時間を記録しておく必要がある。

### 【全体評価】

実行委員の役割分担が明確で責任を持ち取り組めた。人数が少ない分、一人ひとりへの負担は大きかったものの、その分シャープな動きで全体を牽引できた。個人作業に委ねられた分プログラムの思想は偏りがちになった。もちろんその分、プログラム自体に明確な目的を含んだ色合いができた。

参加指導者のサポートも例年に増して有意義であった。実行委員で全て回せない分地区で作る耐寒訓練という雰囲気にはなった気がする。

プログラム面では、WSが直接活きたかが少し確認し辛かったものの、各指導者としての腕を試す機会ともなり良かった。

全体としては、各実行委員がかなり内容を把握できておりスムーズな大会が運営できた。耐寒訓練の実行委員は仕事が多すぎる…というイメージが少しは消せたのでは？と思うようなサクサク進む会議だったが抑える所は抑えきれていたのが良かった。今後の地区各隊の指導によっては大きく発展する奥行きのある大会運営ができたことは、評価したい。